

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月18日

協議会名: 釜石市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社岩手旅行社	<p>・北部コミュニティバス</p> <p>利用状況の推移を捉え、運行ダイヤの見直しを検討するとともに、バス待合環境の整備や利用促進を図るための広報等を行い、事業の周知に力を入れる。</p>	<p>【前回の評価結果】 コロナ禍により利用者数は目標値に届かなかったことから、三陸鉄道や県交通バスとの接続時間の見直しや、運転免許証の返納者に対する割引制度の周知等を継続的にを行い、生活に配慮した利便性の高い公共交通を目指していく。</p> <p>【評価結果の反映状況】 ・庁内公共交通ワーキンググループによる将来を見据えた公共交通の在り方の検討。 ・老朽化した木製バス待合所の修繕を実施しバス待合環境の整備を行った。 ・市内高等学校に通う生徒に対し通学方法アンケートを実施し通学手段の把握を行った。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>C 【目標値】 令和2年度比で令和7年度までに5%利用者増 R2→R5=6,791人→7,000人 【実績値】 ①R2 6,791人 ②R3 5,944人 ③R4 4,752人 ④R5 4,428人 【達成率】 63.3%(R5目標値比) C 昨年実績と比べ、利用者数は減少。要因として、ダイヤ改正後も利用者数の減少が続いていることから、北部地域として利用しづらいダイヤとなっているのか、外出手段として支線部バスの利用が少ない状況となっているため検証が必要(評価C)。 【評価の判定基準】 A: 目標を達成した。 B: 目標達成80%以上100%未満 C: 目標達成80%未満、又は、補助対象外(1運行当たり2人未満、運行割合30%未満)</p>	<p>三陸鉄道や民間路線バスとの接続に留意したバス時刻としているが、今後、待ち時間の調整や、運転免許証を返納した住民等への割引制度の周知をさらに行っていく。 加えて、生活応援センターで開催される行事等に参加する際、支線部バスを利用できるような時間帯での開催を生活応援センターと調整する等、日常利用に配慮した利便性の高い公共交通として住民に周知していく。 また、みちのく潮風トレイル等で千畳敷などの三陸ジオパークを訪れる観光客から支線部バスダイヤの問い合わせも増えていることから、観光面での需要も期待し、観光客を迎え入れる足としての役割も担えるよう、路線の周知など啓発活動にも力を入れていきたい。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
株式会社岩手旅行社 株式会社釜石タクシー	<p>・南部コミュニティバス</p> <p>利用状況の推移を捉え、運行ダイヤの見直しを検討するとともに、バス待合環境の整備や利用促進を図るための広報等を行い、事業の周知に力を入れる。</p>	<p>【前回の評価結果】 コロナ禍により利用者数は目標値に届かなかったことから、三陸鉄道や県交通バスとの接続時間の見直しや、運転免許証の返納者に対する割引制度の周知等を継続的に行い、生活に配慮した利便性の高い公共交通を目指していく。</p> <p>【評価結果の反映状況】 ・市内公共交通ワーキンググループによる将来を見据えた公共交通の在り方の検討。 ・市内高等学校に通う生徒に対し通学方法アンケートを実施し通学手段の把握を行った。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>【目標値】 ①令和2年度比で令和7年度までに5%利用者増 R2→R5=7,876人→8,110人</p> <p>【実績値】 ①R2 7,876人 ②R3 6,953人 ③R4 5,777人 ④R5 5,931人</p> <p>【達成率】 73.1%(R5目標値比)</p> <p>昨年実績と比べ、利用者数は増加。要因として、新型コロナウイルス過の影響が薄れ外出機会が増えたものと推測する(評価C)。</p> <p>【評価の判定基準】 A: 目標を達成した。 B: 目標達成80%以上100%未満 C: 目標達成80%未満、又は、補助対象外(1運行当たり2人未満、運行割合30%未満)</p>	<p>三陸鉄道や民間路線バスとの接続に留意したバス時刻としているが、今後、待ち時間の調整や、運転免許証を返納した住民等への割引制度の周知をさらに行っていく。</p> <p>加えて、生活応援センターで開催される行事等に参加する際、支線部バスを利用できるような時間帯での開催を生活応援センターと調整する等、日常利用に配慮した利便性の高い公共交通として住民に周知していく。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
前勝タクシー有限公司	<p>・にこにこバス(箱崎白浜方面)</p> <p>利用状況の推移を捉え、運行ダイヤの見直しを検討するとともに、バス待合環境の整備や利用促進を図るための広報等を行い、事業の周知に力を入れる。</p>	<p>【前回の評価結果】</p> <p>コロナ禍により利用者数は目標値に届かなかったことから、三陸鉄道や県交通バスとの接続時間の見直しや、運転免許証の返納者に対する割引制度の周知等を継続的に行い、生活に配慮した利便性の高い公共交通を目指していく。</p> <p>【評価結果の反映状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内公共交通ワーキンググループによる将来を見据えた公共交通の在り方の検討。 ・老朽化した木製バス待合所の修繕を実施しバス待合環境の整備を行った。 ・市内高等学校に通う生徒に対し通学方法アンケートを実施し通学手段の把握を行った。 	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>【目標値】</p> <p>①令和2年度比で令和7年度までに5%利用者増 R2→R5=3,054人→3,140人</p> <p>【実績値】</p> <p>①R2 3,054人 ②R3 2,633人 ③R4 2,922人 ④R5 2,688人</p> <p>【達成率】 85.6%(R5目標値比)</p> <p>昨年実績と比べ、利用者数は減少したが、R3実績からみて急激な落ち込みは無く、横ばい傾向と言える。新型コロナウイルス過の影響が顕著ではないことから、一定の住民が日常的に利用していると推測する(評価B)。</p> <p>【評価の判定基準】</p> <p>A: 目標を達成した。 B: 目標達成80%以上100%未満 C: 目標達成80%未満、又は、補助対象外(1運行当たり2人未満、運行割合30%未満)</p>	<p>三陸鉄道や民間路線バスとの接続に留意したバス時刻としているが、今後、待ち時間の調整や、運転免許証を返納した住民等への割引制度の周知をさらに行っていく。</p> <p>加えて、生活応援センターで開催される行事等に参加する際、支線部バスを利用できるような時間帯での開催を生活応援センターと調整する等、日常利用に配慮した利便性の高い公共交通として住民に周知していく。</p> <p>また、みちのく潮風トレイル等で千畳敷などの三陸ジオパークを訪れる観光客から支線部バスダイヤの問い合わせも増えていることから、観光面での需要も期待し、観光客を迎え入れる足としての役割も担えるよう、路線の周知など啓発活動にも力を入れていきたい。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
スクー株式会社	<p>・にこにこバス(尾崎白浜方面)</p> <p>利用状況の推移を捉え、運行ダイヤの見直しを検討するとともに、バス待合環境の整備や利用促進を図るための広報等を行い、事業の周知に力を入れる。</p>	<p>【前回の評価結果】 コロナ禍により利用者数は目標値に届かなかったことから、三陸鉄道や県交通バスとの接続時間の見直しや、運転免許証の返納者に対する割引制度の周知等を継続的に行い、生活に配慮した利便性の高い公共交通を目指していく。</p> <p>【評価結果の反映状況】 ・市内公共交通ワーキンググループによる将来を見据えた公共交通の在り方の検討。 ・市内高等学校に通う生徒に対し通学方法アンケートを実施し通学手段の把握を行った。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>【目標値】 ①令和2年度比で令和7年度までに5%利用者増 R2→R5=3,418人→3,530人</p> <p>【実績値】 ①R2 3,418人 ②R3 2,654人 ③R4 3,141人 ④R5 3,389人</p> <p>【達成率】 96.0%(R5目標値比)</p> <p>B 昨年実績と比べ、利用者数は増加に転じた。要因として、令和3年度実績から微増していることからR4年度のダイヤ改正の効果と捉え、併せて新型コロナウイルス過の影響が薄れ外出機会が増えたものと推測する(評価A)。</p> <p>【評価の判定基準】 A: 目標を達成した。 B: 目標達成80%以上100%未満 C: 目標達成80%未満、又は、補助対象外(1運行当たり2人未満、運行割合30%未満)</p>	<p>三陸鉄道や民間路線バスとの接続に留意したバス時刻としているが、今後、待ち時間の調整や、運転免許証を返納した住民等への割引制度の周知をさらに行っていく。</p> <p>加えて、生活応援センターで開催される行事等に参加する際、支線部バスを利用できるような時間帯での開催を生活応援センターと調整する等、日常利用に配慮した利便性の高い公共交通として住民に周知していく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

令和6年1月18日

協議会名: 釜石市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域公共交通利便増進事業(利便増進計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>・市内公共交通ワーキンググループによる将来を見据えた市内公共交通環境の在り方を検討した。 ・老朽化した木製バス待合所の修繕を実施しバス待合環境の整備を行った。 ・市内高等学校に通う生徒に対し通学方法アンケートを実施し通学手段の把握を行った。 ・岩手県交道路線及び三陸鉄道リアス線との接続を促進するダイヤ改正を令和4年4月に行ったため、利用状況の推移を捉え、運行ダイヤ見直しの検討を行った。</p>	<p>B</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。 ※住民要望等を反映したダイヤ等の見直しを実施しなかったため、今後は住民要望と乗車実績を確認し、ダイヤ等の見直しを検討したい。</p>	<p>・住民が利用しやすいダイヤとなるよう、乗車実績を整理しながら、引き続き事業者と協力し、住民生活に密着した公共交通となるよう利便性の向上を図る。 ・持続可能な公共交通環境の在り方について、市内公共交通ワーキンググループや、市内公共交通事業者と協議していく。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月18日

協議会名：	釜石市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>釜石市は、入り江が深いリアス海岸と斜面が険しい北上山地に囲まれた限られた平野部に、市域を東西に横断する国道283号とJR釜石線及び海岸沿いを南北に伸びる国道45号と三陸鉄道リアス線から伸びる沢筋に可住域が広がっており、その地形的な特性により、鉄道からバス、バスからバスなどの乗り継ぎを前提とした交通ネットワークが不可欠である。</p> <p>乗り継ぎ型ネットワークは、一部には便数を増やすというメリットを増大できるものの、乗り継ぎによる時間的、身体的負担を発生させることから、利用者である市民の高齢化を考慮すると、乗り継ぎの効率化と最低限の利便性の確保の再調整が重要である。</p> <p>釜石市の高齢化率は40%を超え、釜石市内では集落内の商店だけでなくスーパーの閉店もみられ、公共交通の必要性の高まりと、荷物を持った高齢者のバス停から自宅までの移動等の新たな課題の発生が予想され、さらに高齢者ドライバーによる交通事故などが社会問題となっている中で、高齢の免許返納者が今後増えてくることを考えると、地域公共交通網の整備は今後益々必須と考えられる。</p> <p>特に本計画の運行地域は、山間や沢沿いを縫うように走る狭隘な道路しかないため、高齢者が自家用車を運転するには一層負担が大きく、利用者の大半が通院や買い物を目的とした高齢者であることから、住み慣れた地域での生活を維持する上では特に当該路線の存続が必要不可欠となっている。</p>